

高校生の探究的学習スキルと批判的思考態度の育成 (3)

—スーパーグローバル/スーパーサイエンスハイスクールにおける生徒の3年間の成長—

楠見 孝 (京都大学)

キーワード：批判的思考，探究的学習，汎用的スキル

目的

本研究の目的は、スーパーグローバル/サイエンスハイスクール (SGH/SSH) における探究型学習による生徒の3年間の成長を検討することである。対象校では、3つのコースにおいて探究型学習活動を通して、批判的思考力や探究的学習スキル等を育成している。楠見 (2016, 2017, 教心大会) は、測定尺度を開発し、2, 4時点の調査を行った。本研究では、5, 6時点の結果を加え、自由記述によるパフォーマンス課題の結果もあわせて分析して、生徒の態度とスキルの3年間の変化を検討する。

方法

参加者 関西のSGHが4年目、SSHが6年目の府立進学校1年次311 (男145, 女166) 名。コースは普通科、学問研究につながる専門学科 (文理共修と理系専修) の3つ ($n_s=117, 122, 72$) に分かれる。1, 2, 3年次の7月と2月 (3年次だけ3月) に、全員を対象とした質問紙調査を実施した。

質問項目 批判的思考態度尺度 (10項目；論理的思考，探究心，関連づけの3下位尺度，楠見他, 2016) と探究的学習スキル尺度 (11項目；探究法，読解法，表現法の3下位尺度，楠見, 2011) について5件法評定を求めた。あわせて、探究活動において、問いを持つ力 (例：探究した問い)，学んだことを関連づける力 (例：学習と生活場面) について自由記述 (各3問) への回答を求めた。

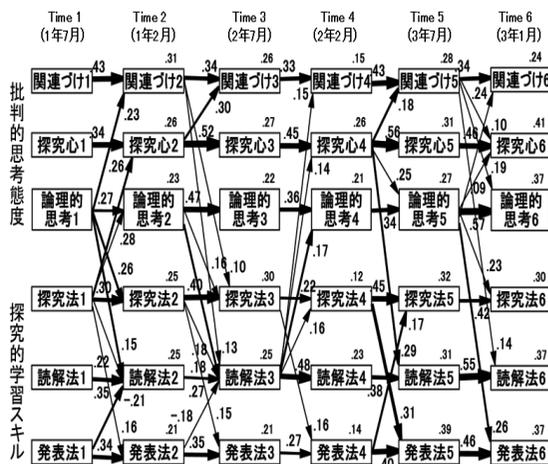


Figure 2 態度とスキル獲得の交差遅れモデル

結果と考察

批判的思考態度 (Figure 1a) と探究的学習スキル (Figure 1b) の各下位尺度において、2年次の7月から2月の間に、全コースの生徒の平均評定値の大きな向上がみられた。

自由記述課題における記述量は、問いについては、1年7月から2年2月までの間に増加し、関連づけについては、3年7月までの間に増加した。

3年間の生徒の変化の規定因を明らかにするために、6時点で全て回答した197名のデータを用いて交差遅れモデルによる分析をした ($CFI=.873, RMSEA=.076$) (Figure 2)。

その結果、1年7月と2月の [論理的思考態度] と [探究法]、2年7月の [読解法] は、次時点の批判的思考態度や探究的学習スキルを向上させた。

これらの結果は、1年1学期で探究法の基礎を学び、1年2学期から2年3学期までそれを活用したグループ研活動をおこなったことの効果と考えられる。

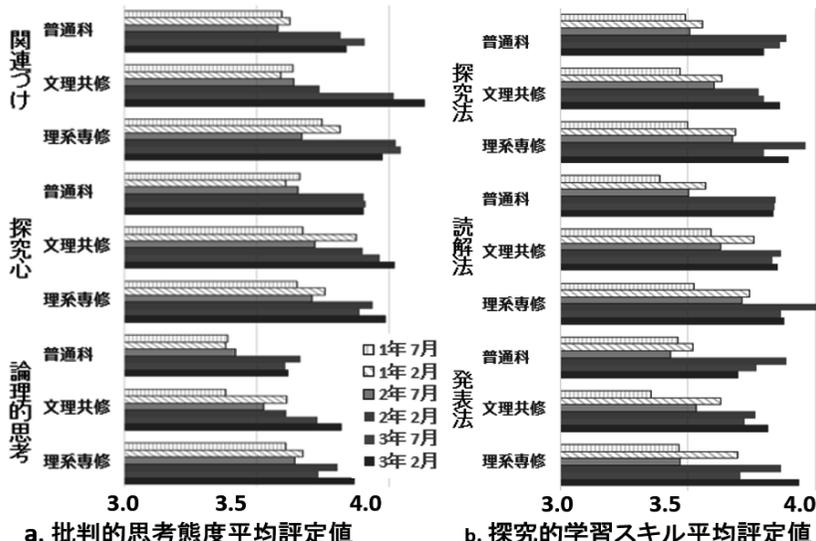


Figure 1 各コースにおける平均評定値の学年変化